


資料 3

一般廃棄物処理基本計画の進捗状況
及び組成調査結果について



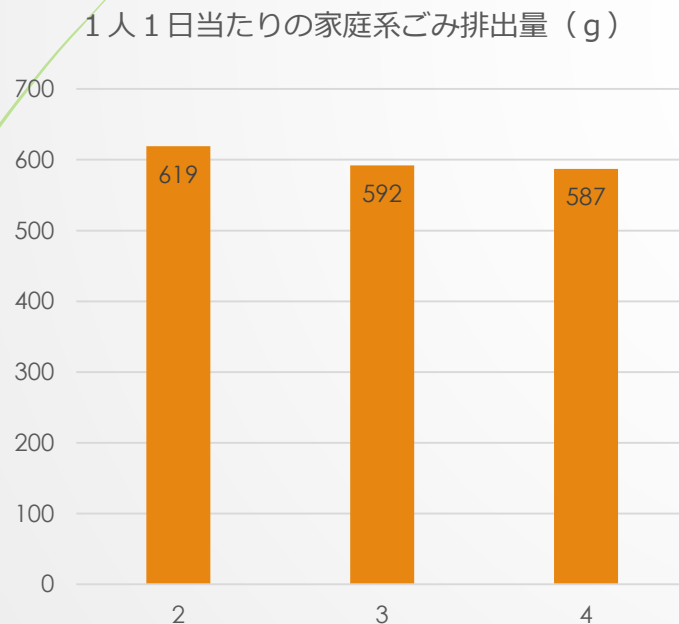


目次

- 一般廃棄物処理基本計画数値目標…………… 1、2
- 施策に対する取り組み状況 …………… 3～5
- 豊山町における可燃ごみの特徴 …………… 6～9
- まとめ …………… 10

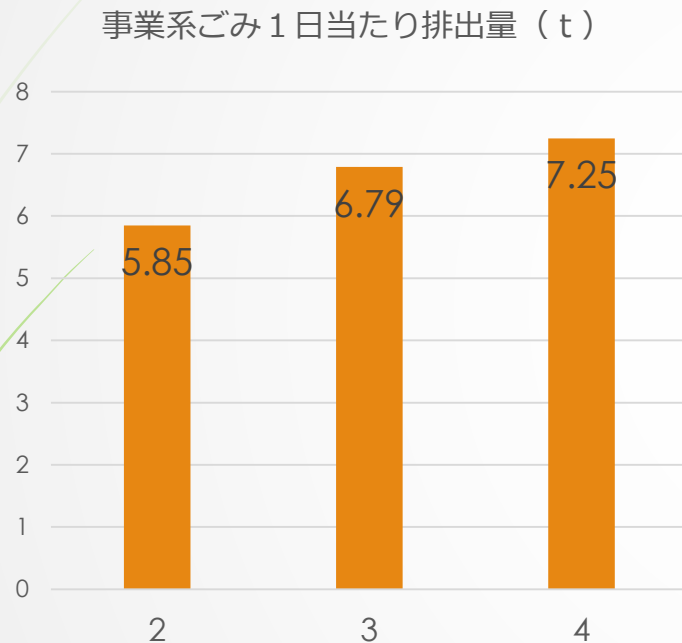
1 一般廃棄物処理基本計画数値目標

- 一人一日当たり家庭系ごみ排出量の数値目標
令和16年度 540g/人・日
- 令和2～4年度実績



家庭系ごみの数値目標は、徐々に目標値に近づいている。

- 事業系ごみ排出量数値目標
令和16年度 5.0 t / 日
- 令和2～4年度事業系ごみ実績



事業系ごみの数値目標は、目標値から遠ざかっており、排出量が増加傾向にある。

2 施策に対する取り組み状況

- 一般廃棄物処理基本計画P 3 5～3 6に掲載している施策に対する取り組み状況

◎ 施策 1 ごみの発生抑制

①	家庭系可燃ごみの食品ロス削減	令和4年度にフードドライブを実施した。段ボールコンポストの実証実験を行うとともに周知啓発した。
②	多量排出事業者への減量・資源化指導	令和7年度以降に実施予定
③	家庭系ごみの適正な手数料負担の検討	具体的な検討には至っていない。ごみの処理料金の導入（有料化）は他の施策実施後に検討していく。
④	集団回収の支援	集団回収の方法は変えていない。学校PTA等集団回収の回収量は年々減少している。

施策2 広報・啓発

①	広報ツールの充実	広報、ホームページの他、各種SNS（LINE、X、フェイスブック）やマスコミを活用し広報している。
②	町民参加型のイベントへの支援・協力	環境フェスティバル以外の町民参加型イベント（プロギング、ピカッと隊）でもごみの減量・リサイクルの広報啓発、情報提供を実施する。
③	ごみの発生・排出抑制、リサイクル意識の普及・広報啓発	毎年、環境フェスティバルを実施し、4Rの普及啓発に努めている。
④	環境学習の推進	令和4年度から内容を見直した。令和4年度は生ごみのリサイクル工場の見学、今年度は、容器包装プラスチック及びガラス瓶のリサイクル工場の見学を実施する。
⑤	事業者に対しての広報啓発・指導	今年度から実施していく予定

施策3 適正処理等の推進

①	町民・事業者・行政の協働	令和4年度からきれいなまちづくり条例を施行し、この条例に基づき、令和5年度から町民、事業者及び行政の協働事業ピカッと隊（530運動）を開始した。
②	資源回収の拡充	プラスチック製容器包装の戸別収集（路線収集）は、令和7年度から開始予定。常設の資源回収ステーションの整備は、今後の検討課題となっている。
③	不法投棄等の対策強化	きれいなまちづくり条例を制定し、不法投棄及びポイ捨てをさせない環境づくりを進めた。不法投棄パトロールを毎年実施している。
④	ごみ出し困難者へのサポートの調査・研究	今後検討していく。
⑤	小売店での資源回収の推進	リサイクルステーションの在り方も含めて、今後検討していく。

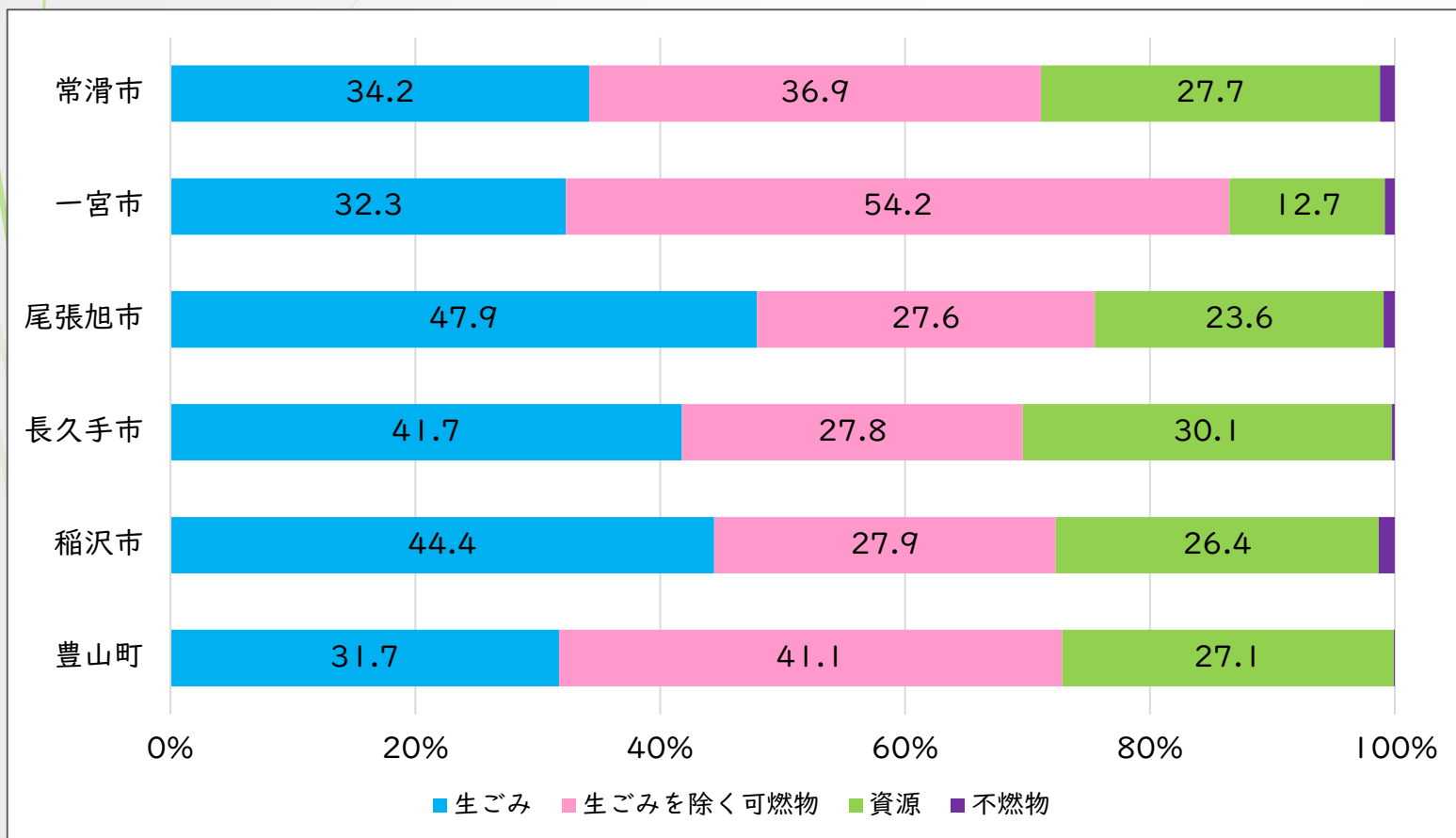
・今後の予定

実施できていない施策について、特に事業者への啓発周知及び指導を中心に取り組んでいく。

3 豊山町における可燃ごみの特徴

①ごみ組成調査結果からの考察

- ・他市町との比較（可燃ごみ中の資源の割合）

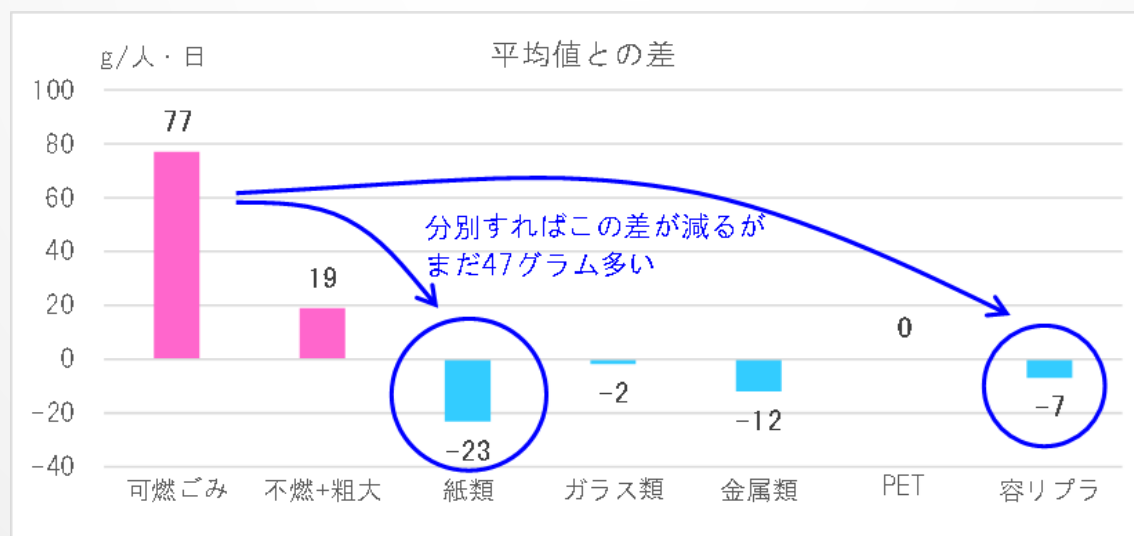



- ▶ 町の可燃ごみに含まれる資源の割合（27.1%）は平均的な資源混入率。
- ▶ 町における可燃ごみ中の資源混入率が3割以下であることから、住民のごみ分別に対する意識は浸透している
- ▶ しかし、一定量の資源混入はあるため、雑がみや布類、容器包装プラスチックの分別が徹底されれば、可燃ごみが削減される。

②家庭系ごみ排出量からの考察

・愛知県平均との比較

項目	最大値	最小値	平均値	豊山町	順位	平均値との差
可燃ごみ	742	342	466	543	51	77
不燃ごみ+粗大ごみ	100	0	28	47	51	19
資源（紙類）	144	12	54	31	47	-23
資源（ガラス類）	24.8	5.3	13.2	11.4	41	-1.8
資源（金属類）	46.4	7.1	19.0	7.1	54	-11.9
資源（ペットボトル）	10.9	2.0	5.9	6.2	21	0.3
資源（容器包装プラスチック）	38.5	0.0	14.5	7.6	39	-6.9



- 
- ▶ 家庭系ごみ排出量の内訳を県内平均値と比較すると、可燃ごみが77 g、不燃ごみ+粗大ごみが19 g 上回っている。
 - ▶ 資源はペットボトル以外平均以下。
 - ▶ **可燃ごみの中に紙類や容器包装プラスチック類が分別されず混入している**ことが想定される。



- ▶ 紙類と容器包装プラスチック類の合計が約-30 g であるのに対し、可燃ごみは+77 g であることから、まだ47 g 多い。
- ▶ ごみ組成調査でも**資源の混入率は平均程度**。
- ▶ この約50 g の差は、住民のごみ減量に対する意識の差と考えにくい。



- ▶ 豊山町の**家庭以外のごみが可燃ごみ収集に出されている**可能性。
- ▶ 路線収集で自宅前に出すため、他地域のごみが持ち込まれる可能性は低い
- ▶ **事業所のごみが不適正に出されている**のでは？

③不適正排出事例写真



事業所に大量の家庭系ごみが出されている



近隣に住宅がないが、大量の家庭系ごみが出されている



近隣の住宅3件に対し多すぎるごみ



事業所の前に家庭系ごみが出されている



事業所の敷地内に家庭系ごみが出されている

4 まとめ

項目2および3の結果から、古紙・布類、剪定枝などのリサイクル施策を検討していくとともに、事業系ごみの適正排出の啓発周知及び指導に取り組んでいく。

①	古紙・布類	さらなる周知啓発に取り組む
②	剪定枝の資源化	可燃ごみの中に約1割含まれている剪定枝について、資源としての収集を検討していく。
③	事業系ごみの適正排出	現状を確認し、町内事業者へ文書による一斉周知をするとともに、状況のひどい事業者へは直接指導に行く。